風土記の丘の花だより327

今、そしてこれから見られる植物（2026年6月27日）

前の号で「もうすぐヤブカンゾウが咲きそうだ」と書きましたが、先にユウスゲが咲きました。毎年、この２つの花はだいたい同じ時期に咲きますが、今年はユウスゲガ早かったですね。ところで、このごろ台風が多いように思います。被害が出ないことを祈るばかりです。

柳川家住宅を左に見て坂をのぼると。竪穴住居の少し手前の左奥に、背の高い白い花が咲いています。タケニグサです。茎が竹に似ているからとか、竹細工に使う竹を煮て柔らかくするときに入れるからとか、名前の由来にはいくつかあるようです。新しい山道の脇や、荒れ地、特に崩落地などに普通に生える草ですが、風土記の丘では余り見かけません。ケシ科の草で、葉や茎を傷付けると黄色い汁が出て、体質によっては、かぶれることもあるので要注意です。

足もとにたくさん生えているモジャモジャした草、ジャノヒゲが白い花を咲かせています。冬に真っ青に熟す実はまるで宝石みたいにきれいですが、花も真っ白で陶磁器のような美しさです。名前は細長い葉から付けられています。別名をリュウノヒゲといいますが、その方が言い得て妙ですね。ヘビにヒゲはありませんものね。なんとかジャノヒゲと付く植物は何種類かありますが、分類はむずかしいので、こんな感じの草はみんな「ジャノヒゲ」でいいでしょう。かつてはユリ科でしたが、今はキジカクシ科とされています。

柳川家住宅と谷山家住宅の間の山側斜面に背の高いタカトウダイの花が、他の草に混じって咲いています。トウダイは沖を照らす灯台ではなく昔の室内の照明に用いた灯明を点す灯台です。長い柄の上に油を入れる皿が乗ったような形を、この植物の立ち姿と重ね合わせたのでしょう。写真は上から撮っていますが、横から眺めると、なるほど灯台だと納得されることでしょう。本家のトウダイグサは高さがせいぜい２０センチくらいなので、本種はまさに高灯台です。

大駐車場のトイレ前などでハマオモトが咲いています。「あれ、ハマユウじゃないの？」という声が聞こえてきそうですが、これがハマユウ（浜木綿）と呼んでいる花のホントの名前です。（でも私は　はまゆう　の方が好きです。）和歌山、とくに海岸近くに住んでいると、それほど珍しいものではありませんが、他県から来られた方にとっては南国情緒あふれるとても魅力的な花らしいですよ。こんな素敵な花が身近に咲くことは幸せなことなのですね。　　　　　　松下